

第8回

ふるさと川柳コンテスト入賞作品

【応募総数】 3、581点（2、078名）

【応募期間】 令和3年6月1日～令和3年9月6日

募集要項

- 1 内容 ふるさとをテーマとしたもの。
- 2 主催 兵庫県北播磨県民局
- 3 後援 兵庫県教育委員会播磨東教育事務所・神戸新聞社
- 4 応募要領 一人2句まで。川柳「五・七・五」の作品で未発表、自作のもの。川柳作品と郵便番号、住所、氏名、電話番号、学校名及び学年を記入のうえ、ハガキ、FAX、インターネットで応募。
- 5 賞 最優秀賞 1点／1万円分の図書カード・北播磨特産品
優秀賞 3点／5千円分の図書カード・北播磨特産品
佳作 20点／千円分の図書カード
- 6 発表 審査会終了後、該当者に通知。兵庫県北播磨県民局のホームページ等で発表。
- 7 著作権 入賞作品の著作権は、兵庫県北播磨県民局に帰属。
- 8 活用方法 「ふるさと北播磨」の普及啓発グッズ等に使用。ホームページでも紹介。

審査員

委員長

大西 泰世（おおにし やすよ）

川柳作家。各地で川柳教室を開くとともに、NHKラジオオへの出演や、各種川柳コンテストの審査員としても活躍中。

委員

清水美知子（しみず みちこ）

関西国際大学人間科学部人間心理学科教授

上田尾 真（うえだお まこと）

神戸新聞社北播磨総局長

《審査員講評》

▼〈みちしるべ〉は、単なる道案内だけではなく、ご先祖様たちがそこでしっかりと根を張り、生活をして来た土地、そのような心豊かなふる里へ導いて下さる〈みちしるべ〉だと思いました。ステキな一句ですね。

(大西審査員)

▼農繁期、田んぼ沿いの道路に農業機械が落としたり土や泥が落ちている光景を目にします。汚いと嫌われがちな土くれを「みちしるべ」にたとえたところに、ふるさとへの愛着が感じられます。

(清水審査員)

▼都会では見ることでできない田植え機の落としたどろが、ふるさとへ誘う道しるべとなっているという着眼点に感心しました。どろに誘われて帰る、ふるさとへの郷愁が感じられる、素晴らしい一句です。

(上田尾審査員)



田植え機のおとしたどろが
みちしるべ

県立西脇北高等学校 2年

佐藤 厚仁



草原も友と帰れば花畑

三木市立自由が丘中学校 3年 中島 彩音

▼ただの草原も、仲の良い友だちと家路に向かえばまるでお花畑を歩いているような気がするのですね。楽しい会話や笑い声が聞こえてくるようで、心弾むようすがよくわかるいい句です。

(大西審査員)

▼代わり映えない草原は、独りで歩いているとつまらないものです。でも、友だちと一緒だと、同じ道でもまったく違った情景に見えてくる。「花畑」という語から楽しさが伝わってきますね。

(清水審査員)

▼何気ない風景も、ふるさとの友達といれば素晴らしい風景になる。ふるさとの友達と過ごした楽しい過去の時間を思い出させてくれる哀愁のある句です。

(上田尾審査員)



優秀賞

《審査員講評》

つばめの子帰って来てねぼくの家

三木市立東吉川小学校 6年 山田 涉晴

▼今年巣立つて行った「つばめの子」が、また来年も来てくれたらどんなにうれしいことでしょう。来年のことを今から気づかう、そんなやさしい気持ちにあふれた句になりましたね。

(大西審査員)

▼人家の軒先に巣を作って子育てをするツバメ。その姿を楽しみにしている人も多いでしょう。巣立ちにより去って行くのは淋しいけれど、いずれまた戻ってきてほしい。そんな思いがこめられたかわいらしい句です。

(清水審査員)

▼軒下に造られたつばめの巣から子どもが巣立つていき、主がいなくなつたつばめの巣。そのさみしさと共に、また来年戻ってきて欲しいと願うほく。きつと来年は、ほくも二回り成長していることでしょう。

(上田尾審査員)



木の香り返って来たよふるさとへ

兵庫教育大学附属中学校 2年 小寺 栞乃

▼木の香り、という形の無いものがふる里の象徴として句に詠まれたのはすばらしいの一言ですね。身体すべてでふる里を感じているのがよくわかります。

(大西審査員)

▼香りに懐かしさを感じることってありますね。この句の作者の場合は「木の香り」です。駅やバス停に降り立った瞬間、吸い込んだ空気にふるさとを感じる。そんな情景が目に見えます。

(清水審査員)

▼ふるさとを感じるのには、目から耳から、そして匂いからも感じることが出来る。離れていると忘れてしまっている、木の香りを感じるることによって、体にふるさとが入っていく様を感じられる句です。

(上田尾審査員)





帰り道母と手つなぐ影ぼうし

西脇市立西脇南中学校 1年

本田 光

ふるさとはいつでもそばに居てくれる

県立三木高等学校 3年

岡本 依莉

帰り道池の亀たち甲羅干し

県立三木高等学校 3年

吉田悠一郎

引っこして今日からここもふるさとだ

三木市立三木中学校 3年

岩本 莉音

おにぎりは店のじゃなくてばあちゃんのお

三木市立吉川中学校 3年

山本 優奈

かれ枝を拾って私はベイトーベン

小野市立小野東小学校 6年

藤原 市夏

明るいな弟の声セミみたい

小野市立小野東小学校 6年

森 悠真

こんにちはマスクの下はみな笑顔

小野市立河合小学校 6年

和田 悠伸

夏休み祖父母のえがおりモートで

小野市立小野東小学校 5年

天野 花音

自転車にせみのぬけがら青い空

小野市立河合小学校 5年

前田 健心



あつすぎてひっくりかえるカブト虫

小野市立小野東小学校 3年
井場 航希

ランドセルぼくといっしょになつやすみ

小野市立小野東小学校 2年
川淵 大晴

ほおばったトマトも口もまっかっか

加西市立富合小学校 6年
西村 羽叶

ふるさとの錆びたブランコなつかしい

兵庫教育大学附属中学校 3年
小林 加奈

友達と「いつものところ」が合言葉

兵庫教育大学附属中学校 3年
森 美紘

コロナ禍で家族だんらんみなスマホ

加東市立東条学園小中学校 4年
柴垣 彩芭

かぜをきるいいにおいだなふるさととは

加東市立東条学園小中学校 4年
佃 妃夏莉

せんせいはやさしくこわくおもしろい

加東市立東条学園小中学校 1年
藤原 蒼羽

日に焼けた足は靴下はいた型

多可町立加美中学校 1年
橋詰 陽斗

おいしいなじいじのやさい金メダル

多可町立中町南小学校 3年
足立 かなめ